



点滴施肥によるてん茶の 長期多収・高品質技術を確立

— 長期継続栽培も可能に —

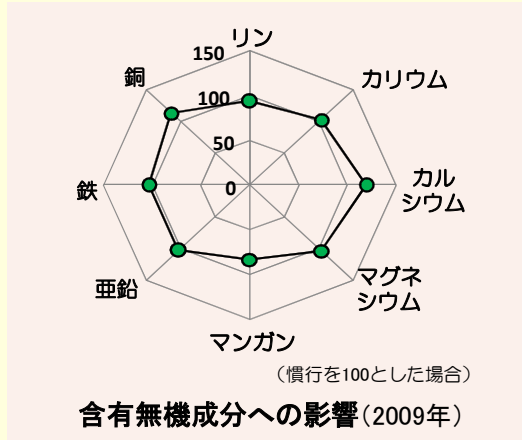
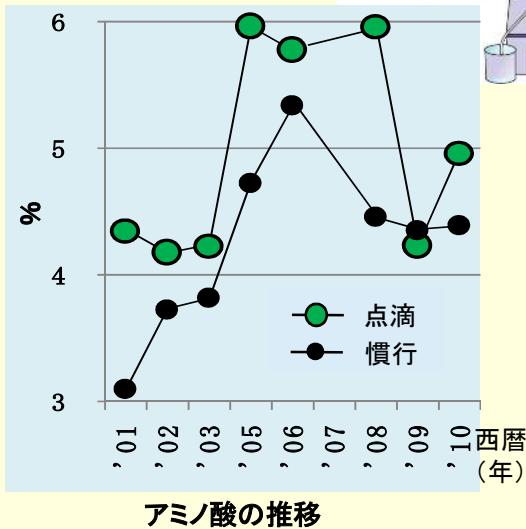
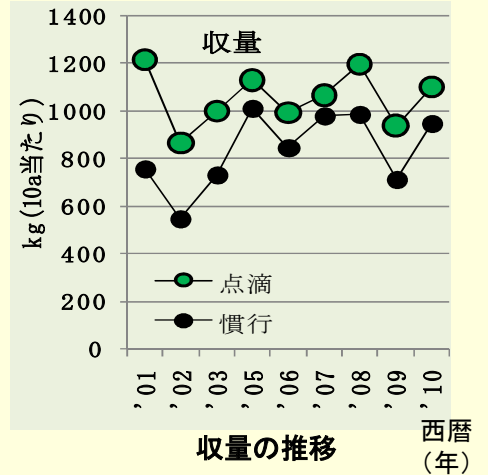
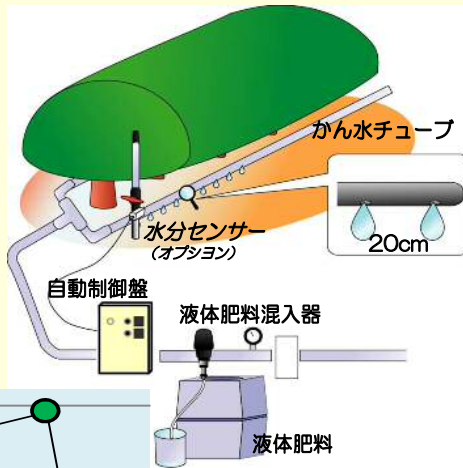
開発の背景・ニーズ

愛知県で開発されたてん茶の点滴施肥技術は、施肥量・労力を削減すると同時に増収・品質向上を可能にする環境にも優しい栽培技術です。しかし、水の確保、初期投資が必要な上、長期継続栽培による茶樹や茶品質への影響が不明でした。そこで、この技術の普及を推進するために、長期継続栽培の影響を検討しました。

成果の内容

てん茶の点滴施肥を継続した結果、年間窒素施用量（10アール当たり）50kgの点滴施肥の収量は、10年を通じて年間窒素施用量69kgの慣行栽培より収量は常に多く、うま味成分のアミノ酸も多く含まれていました。新芽の葉に含まれるカリウム、カルシウムなどの無機成分も慣行栽培のものと比較して大きな差は見られませんでした。

点滴施肥栽培システム



愛知県農業への貢献

点滴施肥栽培を普及することにより、施肥コスト、労力を抑え、茶農家の経営を安定させると共に、茶園からの硝酸性窒素流出を抑え、地下水汚染を軽減させ、地域環境を保全することができます。